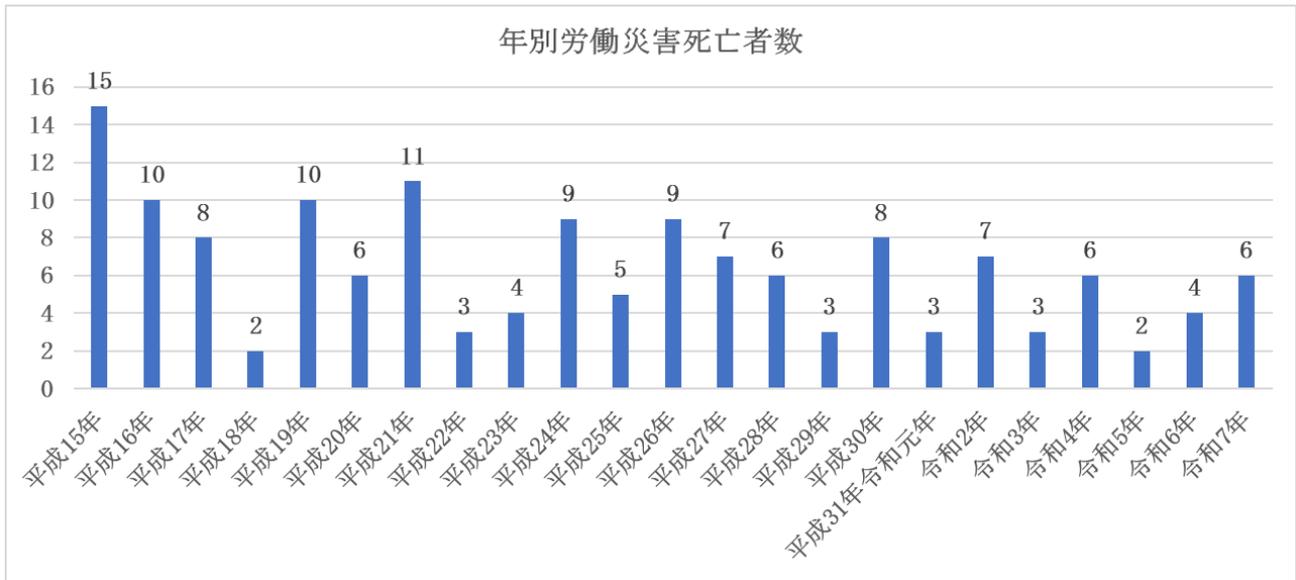


# 金沢労働基準監督署管内の労働災害による死亡者の発生状況

金沢労働基準監督署管内(金沢市、白山市、野々市市、かほく市、河北郡)の金沢地区における平成15年から令和7年まで23年間による死亡者は147名です。

この23年間では、平成15年の15名が最も多く、平成18年と令和5年の2名が最も少なかった年でした。年平均6.4名の労働災害による死亡者がありました。

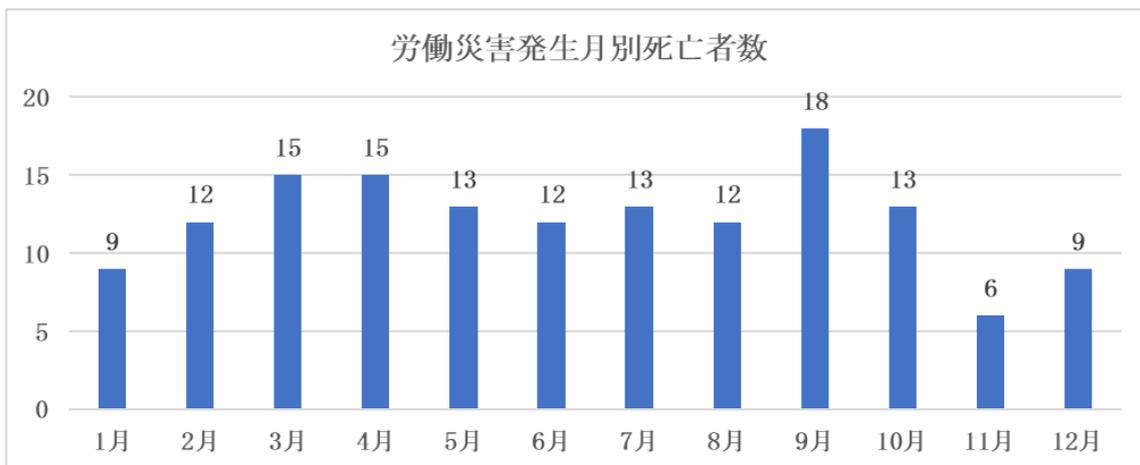
昭和22年の金沢労働基準協会発足以来、死亡災害ゼロを達成した年はありません。



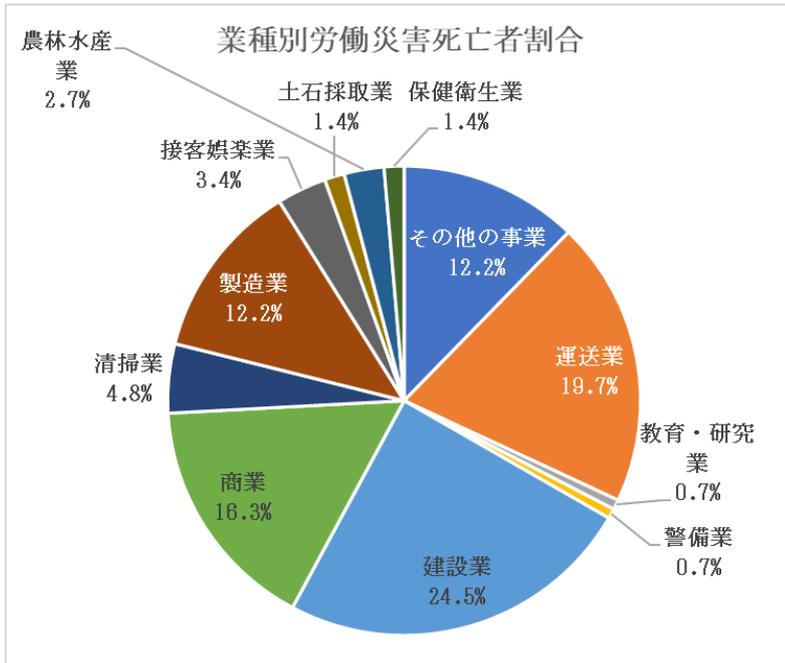
第10次防計画 平成14年～平成19年	第11次防計画 平成20年～平成24年	第12次防計画 平成25年～平成29年	第13次防計画 平成30年～令和4年	第14次防計画 令和5年～令和9年
死亡者45名	死亡者33名	死亡者30名	死亡者27名	死亡者12名

以下は、データのある平成15年以降の23年間の147名の死亡事故の集計分析である。

第14次防の計画目標である死亡災害5%減少では死亡者数を25名以内にすることが必要です。



【労働災害発生月】労働災害の月別発生を死亡者数で見ると、最も多いのが9月の18名で最も少ないのが11月の6名です。この23年間の月間の平均死亡者は12.25人ですので、3月、4月、9月が多い月になります。

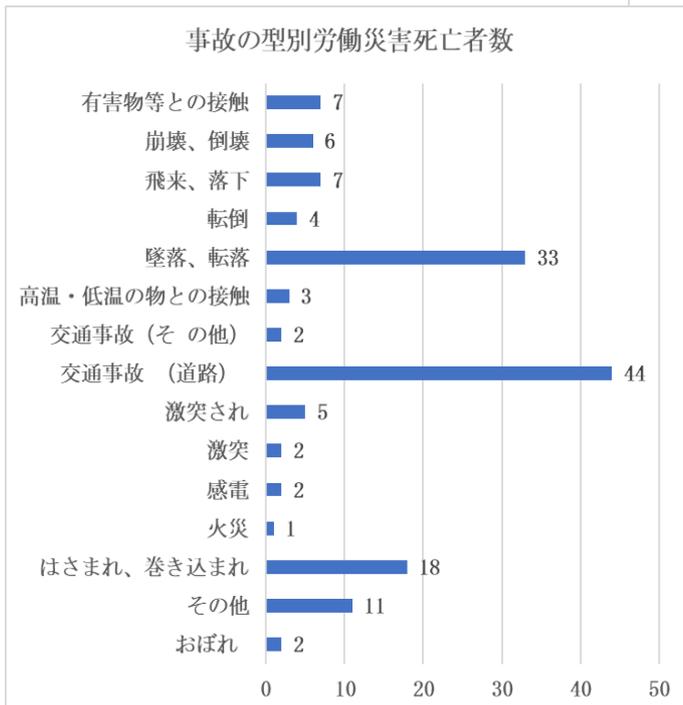
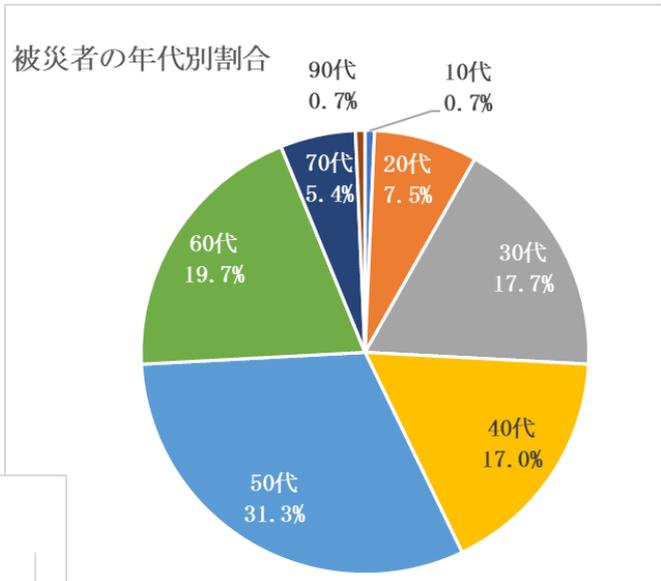


### 【死亡労働災害発生業種別割合】

労働災害の死亡者を業種別にみると建設業が最も多く 36 名 24.5% 次いで、運送業が 29 名 19.7% で、以下、商業 24 名 18.3%、その他の事業 18 名 12.2%、製造業 18 名 12.2% 清掃業 7 名 4.8% 接客娯楽業 5 名 3.4%、農林水産業 4 名 2.7% 土石採取業と保健衛生業が各 2 名 教育・研究業と警備業が各 1 名となっています。

### 【被災者の年代別割合】

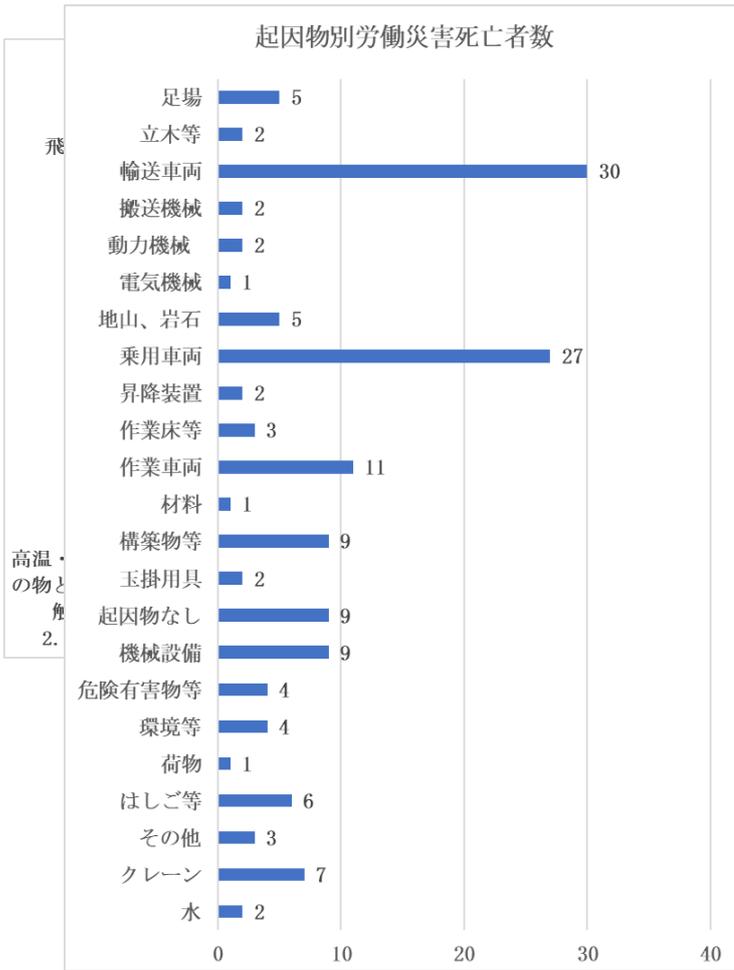
労働災害の死亡者を被災者の年代別にみると、最も多いのが 50 代 46 名 31.3% です。次いで多いのが 60 代 29 名 19.7% です。以下、多い順に 30 代 26 名 17.7%、40 代 25 名 17.0% 20 代 11 名 7.5%、70 代 8 名 5.4% 10 代と 90 代が各 1 名ずつになっています。60 代以上の高齢の被災者が 38 名 25.4% と 4 分の 1 になっています。



### 【事故の型別被災者の割合】

労働災害の死亡者を業種別にみると、最も多いのが。交通事故（道路）44 名 29.9% を占めています。次いで多いのが、墜落、転落事故の 33 名 22.4% です。以下、多い順に、はさまれ、巻き込まれ 18 名 12.2%、その他の事故 11 名 7.5%、飛来、落下事故と有害物等との接触事故が各 7 名 4.8%、崩壊、倒壊事故 6 名 4.1%、激突され事故 5 名 3.4%、転倒事故 4 名 2.7%、高温・低温の物との接触事故 3 名 2.0%、おぼれ事故と感電事故、激突事故、路上以外の交通事故が各 2 名 1.4% ずつ。

火災事故が1名0.7%となっています。



【起因物別被災者の割合】

最も多いのがトラックなどの輸送車両 30 名 20.4%です。次いで多いのが、乗用車両 27 名 18.4%です。以下、多い順に

作業車両	11 名	7.5%
機械設備	9 名	6.1%
起因物なし	9 名	6.1%
構築物等	9 名	6.1%
クレーン	7 名	4.8%
はしご等	6 名	4.1%
地山、岩石	5 名	3.4%
足場	5 名	3.4%
環境等	4 名	2.7%
危険有害物等	4 名	2.7%
その他	3 名	2.0%
作業床等	3 名	2.0%
水	2 名	1.4%
玉掛用具	2 名	1.4%
昇降装置	2 名	1.4%
動力機械	2 名	1.4%
搬送機械	2 名	1.4%
立木等	2 名	1.4%
荷物	1 名	0.7%
材料	1 名	0.7%
電気機械	1 名	0.7%

となっています。

「乗用車両」には、乗用車、バス、バイクのほかスノーモービルを含みます。

「水」は、河川やの油分離槽に落ちて被災した場合です。

「動力機械」は、電動ドリルや排水ポンプです。

「作業車両」は、フォークリフト、解体用機械、建設機械、高所作業車、不整地運搬車です。

「昇降装置」は、エレベータ、リフトです。「搬送機械」は、ベルトコンベアです。

「環境等」には、高圧室内や気温の高い作業環境、

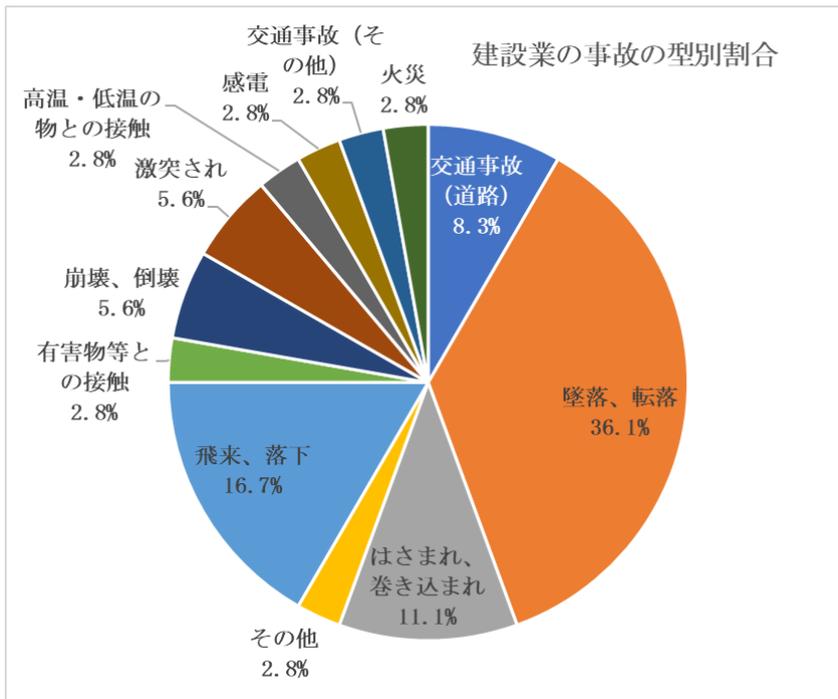
「危険有害物等」には車内でのガス暖房機の火気、ピットに発生した硫化水素、

「構築物等」には、屋根、はり、もや、けた、合掌、階段、栈橋その他の仮設物、建築物、構築物等が該当します。

【業種別事故の型別死亡者数】

「交通事故（道路）」44名で最も多い業種は、運送業16名だが、営業配送などで広範囲を車で移動する卸売業など商業も11名、その他の事業も11名と12業種中7業種で発生しています。

業種別事故の型別死亡者数	製造業	土石採取業	建設業	運送業	農林水産業	商業	教育・研究業	保健衛生業	接客娯楽業	警備業	清掃業	その他の事業	総計
おぼれ												2	2
その他	3		1	1		1		1	3			1	11
はさまれ、巻き込まれ	7	1	4	2		2					1	1	18
火災			1										1
感電	1		1										2
激突					1		1						2
激突され			2	3									5
交通事故(道路)	2		3	16		11				1	1	10	44
交通事故(その他)			1									1	2
高温・低温の物との接触	1		1			1							3
墜落、転落		1	13	4		6		1	2		4	2	33
転倒				1	1						1	1	4
飛来、落下			6			1							7
崩壊、倒壊	1		2	1	2								6
有害物等との接触	3		1	1		2							7
総計	18	2	36	29	4	24	1	2	5	1	7	18	147



「墜落、転落」事故 33 名で最も多い業種は、建設業 13 名だが、商業 6 名、清掃業 4 名など 8 業種で発生しています。

「はさまれ、巻き込まれ」事故 18 名で最も多い業種は、製造業 7 名ですが、建設業 4 名など 7 業種で発生しています。

業種に絞ると特異なのは、建設業で 15 の事故の型のうち 12 の類型で事故が発生しています。

起因物別業種別死亡者数	製造業	土石採取業	建設業	運送業	農林水産業	商業	教育・研究業	接客娯楽業	保健衛生業	警備業	清掃業	その他の事業	総計
水												2	2
クレーン			4	2		1							7
その他	1					1			1				3
はしご等			3			1			1		1		6
荷物				1									1
環境等	1		2		1								4
危険有害物等	3			1									4
機械設備	3		1	1		3		1					9
起因物なし	2		1	1				3				2	9
玉掛用具			1			1							2
構築物等			4	1		2		1			1		9
材料	1												1
作業車両		1	4	2	1	2	1						11
作業床等						1					1	1	3
昇降装置	2												2
乗用車両	1		2	4		8					1	11	27
地山、岩石			3	1								1	5
電気機械	1												1
動力機械			2										2
搬送機械		1				1							2
輸送車両	3		5	15		3			1	2	1		30
立木等					2								2
足場			4								1		5
総計	18	2	36	29	4	24	1	5	2	1	7	18	147

#### 【業種別起因物別死亡者数】

水への転落事故は建設業や農林業ではない施設で発生しています。

クレーン事故は製造業にはなく、建設業と運送業に発生しています。

梯子災害は建設業以外にも倉庫などで発生しています。

危険物有害物の事故は取り扱うことのできる製造業が多くなっています。

フォークリフトや建機の作業車両は、建設業以外では倉庫作業のある卸売業などで発生しています。

乗用車、バスなどの乗用車両は営業配送などの多い商業、その他サービス業で多く発生しています。

トラックと鉄道ですが、運送業以外にも建設業や製造業、商業で発生しています。

清掃業は、はしごや足場など高所作業での事故が多くなっています。

運送業は、トラックの事故が多いですが、クレーン、乗用車、フォークリフト事故も発生しています。

商業、特に卸売業は、クレーン、はしご、フォークリフト、コンベア、トラックなど多様な機材を使用して事故が発生しています。

記載された 23 の起因物のうち、建設業では最も多い 13 種類の起因物で事故が発生し、次いで商業が 11 種類、製造業と運送業が 103 種類の起因物で事故が発生しています。

### 【業種別災害発生時の作業状況事故要因など】

以下は、事故時の作業、事故原因となる状況、傷病の態様などを 1 つの事故につき 3 つずつ抽出して集計したものです。147 件の事故に 3 つの要因で 441 の要因を集計しました。

業種別 災害発生時の作業 作業状況 事故要因など	製造業	土石採取業	建設業	運送業	農林水産業	商業	教育・研究業	接客娯楽業	保健衛生業	警備業	清掃業	その他の事業	総計
車両走行操作	3	1	3	13		11	1	1			1	9	43
2m超高所			9	4		3			1		3		20
後方から追突	1		1	8		3				1	1	2	17
正面衝突	1		2	6		4						1	14
センターラインオーバー	1		2	4		4						1	12
過重労働	3		1	1				3				2	10
長時間労働	3		1	1				3				2	10
交差点				2		2						5	9
墜落			5			2			1		1		9
交差車両衝突				2		2						5	9
車両近接場所			2	3		1				1		2	9
墜落危険場所			3	1		2		1				1	8
機械点検整備作業	5	1				2							8
斜面作業	1		4	1							1	1	8
車両転落		1	1			1		1			1	1	6
車両点検整備作業	1		1	2							1	1	6
車両運転操作			3	1							1		5
停止機械稼働	4		1										5
重量物取扱作業			3	1		1							5
自動車道路	1			1		2						1	5
車両逸走	1		2	1								1	5
重量物取扱			3	1	1								5
感染症						2			2				4
不明	1		1					1				1	4
脳出血	2			1				1					4
路上歩行				3		1							4
中毒危険場所	3			1									4
車両後進	1		2	1									4
熱中症	2		2										4
クレーン周辺作業			3	1									4
ピット内	3					1							4
重量物転倒落下	1		1	1							1		4
一酸化炭素中毒				1		2							3
はしご作業			2			1							3
車両横転			1	1	1								3
火気使用				1		2							3
脚立作業			1						1		1		3
倉庫内作業			1	1								1	3
工事道路侵入				2							1		3
足場			2								1		3
施設に激突					1	1	1						3
足場作業			3										3
硫化水素	3												3
路肩法肩		1		1		1							3
滑落			2									1	3

業種別 災害発生時の作業 作業状況 事故要因など	製造業	土石採取業	建設業	運送業	農林水産業	商業	教育・研究業	接客娯楽業	保健衛生業	警備業	清掃業	その他の事業	総計
路上作業			1							1		1	3
修理点検整備作業						1					2		3
重量物運搬作業	1		1								1		3
車両荷台作業			1	2									3
吊り荷				2									2
新型コロナウイルス						1			1				2
転落			1			1							2
激突され					2								2
側壁衝突	1											1	2
建機近接作業			1	1									2
鉄骨組立作業			1	1									2
建機作業操作				1	1								2
玉掛作業			1			1							2
ローリングタワー			2										2
荷の上				2									2
異常作動	2												2
滑落危険場所			1									1	2
液水に転落												2	2
バイク						2							2
下敷き			1	1									2
鉄道踏切			1									1	2
かかり木					2								2
埋没			2										2
火災危険場所			1			1							2
荷			2										2
掘削作業			2										2
飛来鋼材				1									1
吊具破損			1										1
中二階												1	1
移動歩行中						1							1
土止め工不施工			1										1
スノーモービル				1									1
ガードレールのない路肩法肩												1	1
運転席キャビン			1										1
なし				1									1
運搬機作業操作						1							1
自走式芝刈り機								1					1
サイロ内作業			1										1
排水作業			1										1
屋上パラペット								1					1
法面			1										1
屋上配管								1					1
建機運転操作			1										1
フォークリフト	1												1
貯水槽												1	1
首タオル・ヤッケ		1											1
散乱資材												1	1
フォークリフト搭乗	1												1
施設引火			1										1
ベルトコンベア		1											1
電気周辺	1												1
重量物作業						1							1
間伐作業					1								1
稼働中機械											1		1
搬器	1												1
稼働中機械接近						1							1
歩行中												1	1
高圧室内作業			1										1
落石			1										1

業種別 災害発生時の作業 作業状況 事故要因など	製造業	土石採取業	建設業	運送業	農林水産業	商業	教育・研究業	接客娯楽業	保健衛生業	警備業	清掃業	その他の事業	総計
出張作業	1												1
休憩			1										1
出入口							1						1
減圧不調			1										1
昇降作業	1												1
駐車場												1	1
信号待ち				1									1
街路樹				1									1
心筋梗塞								1					1
材料搬入口						1							1
高架水槽											1		1
吊具外れ						1							1
水上作業												1	1
ボート												1	1
水中ポンプ			1										1
資材ラック				1									1
水路転落						1							1
電気ストーブ						1							1
高気圧障害			1										1
土のう袋											1		1
精神疾患												1	1
動物飼育					1								1
漏電			1										1
機械火花			1										1
接触衝撃			1										1
伐木作業					1								1
設備点検作業						1							1
被服引火						1							1
倉庫作業						1							1
機械装置内	1												1
荷物ラック						1							1
崩落危険箇所			1										1
走行車式自動装置	1												1
モノレール			1										1
合流衝突						1							1
落馬					1								1
トンネル												1	1
バックカー											1		1
足場移動			1										1
路上駐車				1									1
解体作業				1									1
路面凍結				1									1
体調不良	1												1
階段転落						1							1
積雪立ち往生			1										1
総計	54	6	108	87	12	72	3	15	6	3	21	54	441

### 【災害発生状況の分類集計】

以下は、事故時の作業、事故原因となる状況、傷病の態様などを1つの事故につき3つずつ抽出して集計したものです。147件の事故に3つの要因で441の要因を集計しました。パーセンテージは、その類家の中の割合です。

1. 最も多いのが路上交通事故などの車両走行操作中の事故 43 件 29.3%です。この路上交通事故の状況をみると、

- 車両走行操作作業 43 件 29.3%であるが、後方から追突 17 件 11.6%、正面衝突 14 件 9.5%であり、うちセンターラインオーバー12 件 8.2%で死亡災害が発生しています。(意識喪失は不明)交差点での事故が 9 件 6.1%、交差車両衝突事故 9 件 6.1%もあります。(交差点注意！)
- 路上走行以外の車両関連事故では、車両運転操作中 5 件 3.4%、車両逸走事故 5 件 3.4%、車両後進中 4 件 2.7%、車両横転事故 3 件 2.0%、車両転落事故 6 件 4.1%である。
- 車両近接場所 にいた作業員の事故が 9 件 6.1%、車両荷台作業中の事故 3 件 2.0%、車両点検整備作中 6 件 4.1%で死亡災害が発生しています。

⇒金沢労働基準協会令和ゼロ災プロジェクト「二次健康診断を受けよう」運動参照

2. 次いで、**2m超の高所で作業していた事故**が 20 件 13.6%ですが、関連して、

- **墜落** 9 件 6.1%、**墜落危険場所**での作業 8 件 5.4%、**斜面作業** 8 件 5.4%、**滑落** 3 件 2.0%、**滑落危険場所** 2 件 1.4%、**足場作業** 3 件 2.0%、**路肩法肩**からの転落 3 件 2.0%、
- **はしご作業** 3 件 2.0%、**脚立作業** 3 件 2.0%、**ローリングタワー**-2 件 1.4%で死亡災害が発生しています。(梯子脚立注意！)

⇒金沢労働基準協会令和ゼロ災プロジェクト「4つのないか」運動参照

3. **重量物取扱作業** 5 件 3.4%に関連して、**重量物転倒落下** 4 件 2.7%、**クレーン周辺作業** 4 件 2.7%、**玉掛作業** 2 件 1.4%、**吊り荷**の事故 2 件 1.4%、**重量物**の下敷き 2 件 1.4%で死亡災害は発生しています。

⇒金沢労働基準協会令和ゼロ災プロジェクト「4つのないか」運動参照

4. **機械点検整備作業** 8 件 5.4%、**車両点検整備作業** 6 件 4.1%、**修理整備作業券** 2.0%は、いずれも機械設備を停止させて行うべきものですが、**停止機械稼働事故** 5 件 3.4%、

⇒金沢労働基準協会令和ゼロ災プロジェクト「4つのないか」運動参照

5. **業務上疾病による死亡災害**をみると、**感染症** 4 件 2.7%、うち**新型コロナウイルス** 2 件 1.4%であり、**熱中症** 4 件 2.7%の死亡災害が発生しています。特に熱中症は体調を崩した作業者を休ませておいて死亡に至るケースが問題視されています。熱中症がなぜ命に関わることになるのか教育が必要です。

また、**中毒危険場所での死亡**が 4 件 2.7%、うち**硫化水素** 3 件 2.0%、**一酸化炭素中毒** 3 件 2.0%の死亡災害が発生しています。**ピット内作業** 4 件 2.7%、**火気使用中**に事故 3 件 2.0%、

⇒金沢労働基準協会令和ゼロ災プロジェクト「熱中症のこと教えよう」運動参照

6. **過重労働** 10 件 6.8%、このうち、**脳出血** 4 件 2.7%、**心筋梗塞** 1 件 1.4%のうち 2 件は事務所や作業場で倒れています。周囲の作業者の救護が必要でした。あなたの会社は救護できる方がいますか。

⇒金沢労働基準協会令和ゼロ災プロジェクト「やろまいか救護訓練」運動参照